SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

認知症患者及び軽度認知障害患者の心理検査における言語特徴分析（研究の成果発表（シニア（大学4年生以上）, 新規発表））

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-08-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 徐, 黄棟, 吉井, 謙太, 西村, 雅史 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00028331

研究の成果発表（シニア（大学 4 年生以上），新規発表）

認知症患者及び軽度認知障害患者の心理検査における言語特徴分析

徐黄棟（静岡大学情報学部情報科学科），
吉井謙太（静岡大学大学院総合科学技術研究科情報学専攻），
西村雅史（静岡大学学術院情報学領域）

現在の日本では 65 歳以上の高齢者の 4 分の 1 が認知症およびその予備軍であるとされ，今後も認知症者は増加すると予想される．軽度認知障害（MCI）の段階では回復の可能性があるとされる一方，この段階を過ぎて認知症となった後では回復は望めないとも言われている. このため，認知症者の増加を抑えるためには MCI 段階での早期発見が重要である.

本研究では，健常高齢者に加え，認知症患者や軽度認知障害患者に対して心理検査（MMSE）を実施し，その際の会話音声を書き起こすことで特に被験者発話に含まれる言語的特徴を分析した．その結果，会話に出現した単語の名詞割合，代名詞割合や助詞割合といった点で健常者と認知症者には有意な差が見られ，さらに健常者と MCI 患者の間にも助詞割合と感動詞割合において有意傾向にある差が認められた.